

特別支援学級担任等授業改善研修会 研修内容や資料等の共有を！

現在、全ての教師に障害等の特性に関する理解と指導方法を工夫できる力、個別の教育支援計画・個別の指導計画など特別支援教育に関する基礎的な知識、合理的配慮に対する理解が必要とされています。

水戸教育事務所では、今年度、管内11市町村が5区域に分かれ、「特別支援学級担任等授業改善研修会（集合指導訪問）」をオンラインにて実施しました。研究協議では、授業発表校からの提案のもと、各学校における子供一人一人のニーズに応じた特別支援教育の推進と体制の強化に向けて話し合い、専門性を高めました。また、幼児教育施設や高等学校の先生方を交えた学校間の円滑な接続のあり方について情報交換を行いました。

各学校においては、全教職員で本研修の内容や資料等の共有を図り、特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒に対する指導や支援の一層の充実に努めていただきますようお願いいたします。



特別な教育的・支援をの必要実とする向け児童生徒

特別支援教育巡回相談の活用



水戸教育事務所では、各学校等の要請に応じて、県立特別支援学校の教員が障害のある幼児児童生徒や担当する教員等に対して助言・援助を行ったり、保護者等に対して教育相談を行ったりする「特別支援教育巡回相談」の活用を進めています。

相談の内容によって、大学教授や医師、公認心理士、理学療法士等の派遣を県立特別支援学校をとおして要請し、相談を行うこともできます。まずは、市町村教育委員会にご相談ください。

【活用例】

- ・授業づくりや保育・指導に関する助言（児童等の実態把握や評価、個別の教育支援計画や個別の指導計画作成に係る助言、ケース会議での助言を含む）
- ・特別支援教育に関する研修会や保育・授業研究に係る研究協議会等での講師
- ・就学・進学や就労等に関する支援や情報提供（県立特別支援学校の見学を含む）

春夏冬話「あきない話」コーナー

「学びを考え直してみると・・・」



今から20年前の記憶がよみがえりました。学年の先生と雑談をしている中で、次のような話をしたことを覚えています。学習は、「？」を「！」に変えてあげることだ。そのために、私たちは授業を工夫する必要があるのではないかと。

なぜ、この言葉が思い出されたかという、4月のはじめに、オンラインで県教育庁秋本光徳学校教育部長の講話を聞く機会を得ることがあったからです。3点ほど話があり、その第1点目が、「？」を大切にするとということでした。具体的には、『学びの変革』を教師は求められていて、『子供を主体に捉え直す』こと、2点目が、教え込まないこと、3点目は、生徒（児童）ファーストにすることでした。

おそらく、現在の学習指導要領に示されている「主体的、対話的で深い学び」を実現するためには、旧態依然とした学習スタイルではいけないことを話してくださったのだと思います。

「インプット」から「アウトプット」へ、「勉強」から「学び」へなど、児童生徒が自ら学び続けられるように、コーディネーター役やファシリテーター役をすることが求められているでしょう。（by O・M）